

## 10 景観

### 【予測に対する基本的な考え方】

景観については、事業により表-10.1 に示すような項目により、事業実施区域及びその周辺の景観に影響を及ぼす可能性が想定されました。したがって、これらの項目について、起こりうる景観の変化を把握して景観へ与える影響を予測しました。

表-10.1 景観に及ぼす環境影響の要因

景 観	工事中の影響 (工事の実施)	建設後の影響 (設備の存在)
主要な眺望点 景観資源 主要な眺望環境	—	<ul style="list-style-type: none"><li>ダム堤体の存在</li><li>原石山の跡地の存在</li><li>建設発生土受入地の跡地の存在</li><li>道路の存在</li><li>ダムの供用</li><li>貯水池の存在</li></ul>

### 【予測に必要な調査結果の概要】

主要な眺望点、景観資源の状況及び主要な眺望景観の状況を調査しました。主要な眺望点については、堤頂長（370m）の約100倍である半径40kmの範囲を対象に、文献調査を行い、可視領域や視角、代表性等を考慮して最終的に5地点を「主要な眺望点」として選定しました。また、景観資源については、同様の範囲から文献調査等により火山群等40箇所を抽出しました。

主要な眺望景観については、選定された「主要な眺望点」5箇所からの景観としました。

### 【予測結果及び保全対策の概要】

影響予測の結果、主要な眺望点・観光資源は事業実施区域から離れているため改変による影響はないと予測しました。また、主要な眺望景観については、事業により改変される箇所はいずれも点状もしくは短い線状にのみ認識されることから、眺望景観の変化は小さいと予測しました。

## 10.1 調査結果

### 10.1.1 調査手法

調査地域は、堤頂長（370m）の約 100 倍である半径 40km の範囲を対象として行いました。（図-10.1）

主要な眺望点の選定にあたっては、図-10.2 に示すフローにより、文献調査を始め、可視領域や視角、代表性を考慮に入れた検討、現地調査等を行い、最終的に 5 地点を「主要な眺望点」として選定しました。図-10.1 に選定された主要な眺望点を示します。

景観資源については文献調査を行い、火山群、火山、火山性高原、非火山性弧峰の合計 40 箇所が選定されました。

主要な眺望景観の状況については、主要な眺望点 5 箇所からの景観を現地調査において確認しました。

調査手法、調査時期、景観の調査地点については表-10.2～4 に示します。

表-10.2 景観の調査手法

調査項目	調査方法	調査内容
主要な眺望点の状況	文献調査 聴取調査 現地踏査	文献調査及び現地踏査により、主要な眺望点を選定した。また、必要に応じ、聴取調査により情報を補った。
景観資源の状況	文献調査	文献調査により、景観資源を選定した。
主要な眺望景観の状況	現地調査	現地調査(写真撮影)により、主要な眺望点から景観資源を望んだ場合の眺望景観の状況を把握した。

表-10.3 景観の調査時期

調査年	調査項目	春季	夏季	調査期間
平成 17 年	主要な眺望景観の状況	3月30日 4月1日 4月2日	6月5日 6月6日 8月4日	昼間

表-10.4 景観の調査地点

調査項目	調査地点
主要な眺望景観の状況	五条殿山、 大将陣山、 椿ヶ鼻ハイランドパーク（以下「椿ヶ鼻」）、 由布岳、 久住山

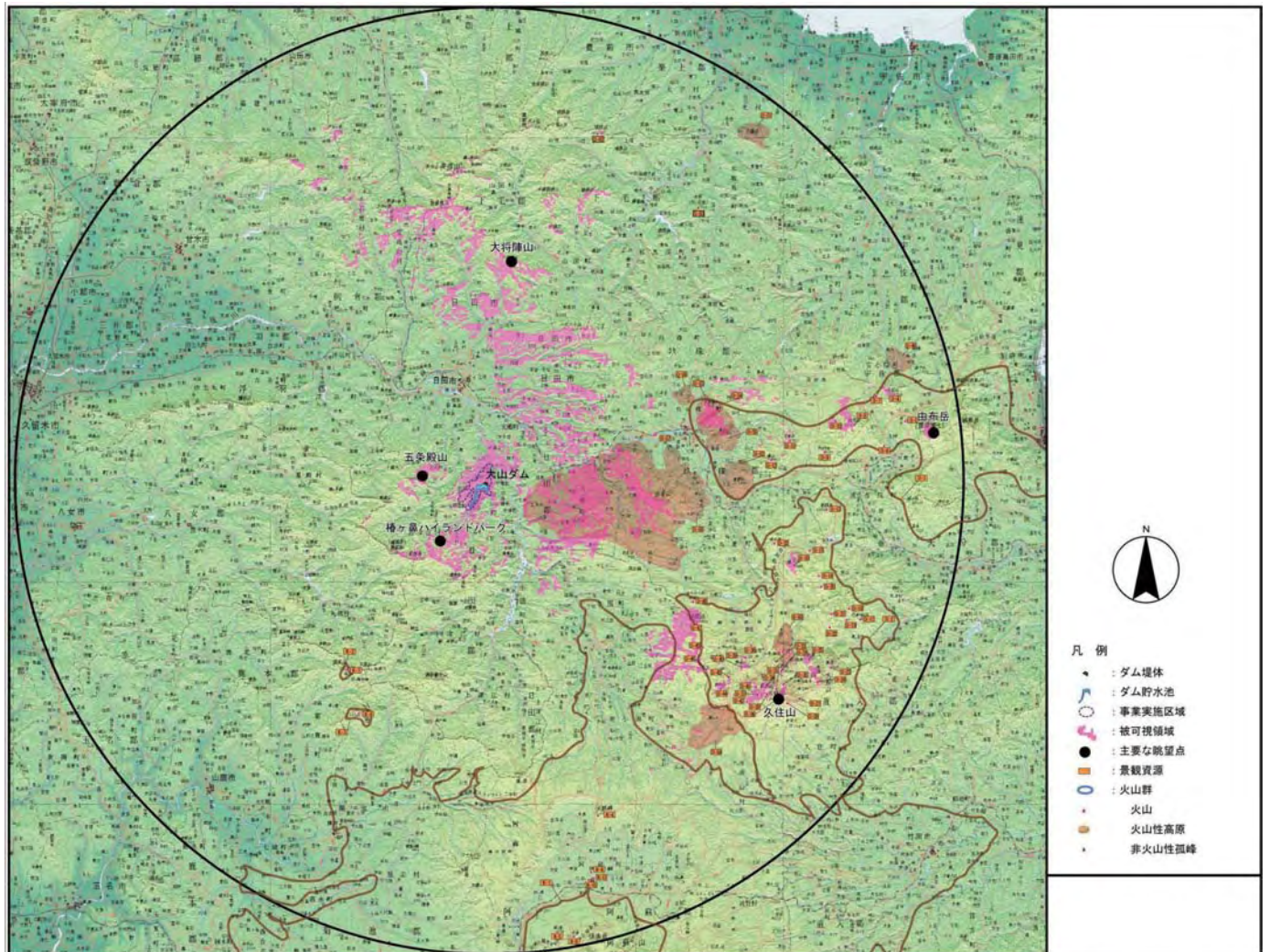


図-10.1 景観調査地点図

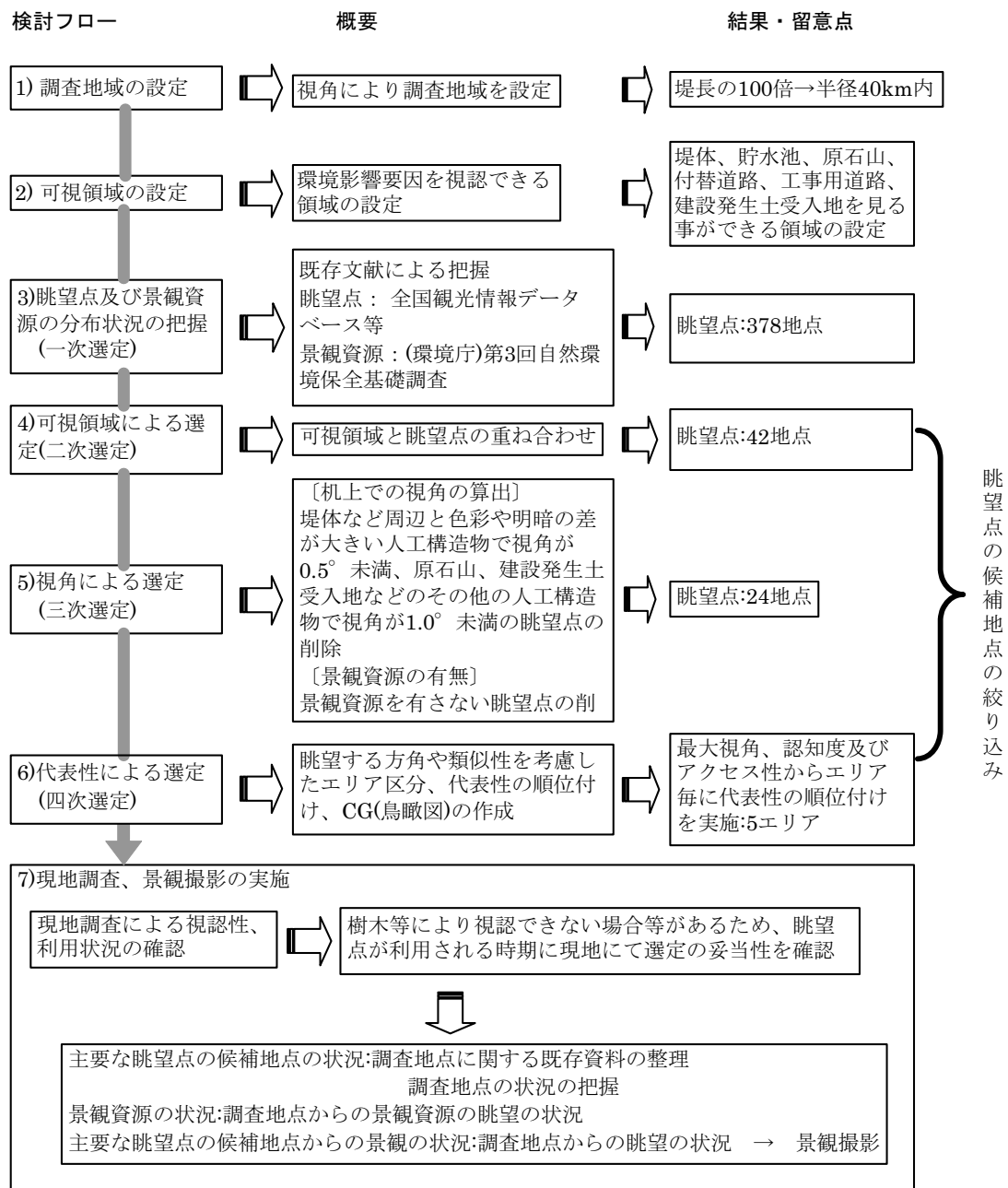


図-10.2 主要な眺望点の選定フロー

### 10.1.2 調査結果

調査結果を表-10.5 に示します。

表-10.5 景観の調査結果

調査項目	調査地点	概要
主要な眺望点の状況	五条殿山	日田市の南部に位置し、山頂には祠がある地元の人には良く知られた標高834mの山である。登山口から約20分で山頂に辿り着く。登山道は登山口からほぼ直線の緩やかな斜面が続くが、頂上付近は斜面が急で、階段が整備されている。山頂の周囲は樹木等に囲まれている。
	大将陣山	標高910mの山で、日田市と中津市の境に位置し、大分百山に選定されている。日田方面の登山道はスギ植林地の中を抜けるルートで、登りやすくなっている。頂上周辺は開けているが、風倒木等で登りにくくなっている。山頂はススキに覆われているが、展望は良い。
	椿ヶ鼻	標高940m前後の広大な椿ヶ鼻高原にあり、展望は良い。車で行くことができる。キャンプ場のほか、ロッジ等の施設を中心に、アスレチック・サイクリング・バーベキューが出来る施設があり、家族連れ等で賑わう。
	由布岳	ほぼ同じ高さ(標高1583m)の東西二峰を持つ双頭峰で、その山容から豊後富士と呼ばれており、阿蘇くじゅう国立公園の一部となっている。山頂の展望は良く、ミヤマキリシマが咲く6月初旬には多くの登山客が訪れる。由布正面登山口から約2時間20分程度で山頂に辿り着く。西峰は鎖を伝う障子戸の岩登りがある。
	久住山	くじゅう連山の主峰のトロイデ型休火山(標高1787m)で三つの火口跡があり、阿蘇くじゅう国立公園に指定されている。牧ノ戸峠より約2時間30分で山頂に辿り着く。登山時期は6月～11月で、ベストシーズンはイワカガミやアセビ、ドウダンツツジ、ミヤマキリシマが楽しめる6月初旬から中旬と、次いで紅葉季の10月中旬であり、多くの登山客で賑わう。
景観資源	火山群	火山群としては、由布岳、鶴見岳等を有する由布鶴見火山群、九州本島最高峰の中岳、久住山、大船山等の高峰を有するくじゅう火山群、南北25km、東西18km、周囲128kmの世界最大級のカルデラを持つ阿蘇火山、阿蘇五岳と呼ばれる火口丘が東西に連なる阿蘇中央火口群が分布している。いずれも阿蘇くじゅう国立公園に指定されている。
	火山	火山としては、由布岳、池ノ台、福万山、カルト山、平家山、横山、崩平山、鍋山、合嶋山、鏡山、万丈岳、大船山、平治岳、三俣山、天狗ヶ城、鹿伏岳、星生山、久住山、肥前ヶ城、黒岩山、合頭山、獺師山、みそこぶし山、一目山、涌蓋山、米塚、高岳、中岳(阿蘇)、杵島岳、根子岳が分布している。
	火山性高原	火山性高原としては、宝山(標高816m)、角埋山(標高577m)、伐株山(標高690m)、万年山(標高1140m)が分布している。
	非火山性孤峰	非火山性孤峰としては、木ノ子岳(標高630m)、雁股山(標高807m)が分布している。
主要な眺望景観の状況	五条殿山	山頂から東南東方向の眺望景観であり、一部樹木等で視界が遮られるが、景観資源である万年山、崩平山等を眺望することができる。
	大将陣山	山頂から南南西方向の眺望景観であり、景観資源である中岳(阿蘇)、杵島岳等を眺望することができる。
	椿ヶ鼻	風車2号機の広場から北北東方向の眺望景観であり、景観資源である雁股山、木ノ子岳等を眺望することができる。
	由布岳	山頂から西方向の眺望景観であり、景観資源である池ノ台、平家山等を眺望することができる。
	久住山	山頂から北西方向の眺望景観であり、景観資源である一目山、涌蓋山等を眺望することができる。

## 10.2 予測結果

### 10.2.1 予測手法

予測の対象とする影響要因と環境影響の内容を表-10.6に示します。

主要な眺望点及び景観資源の改変の程度については、事業計画と主要な眺望点、景観資源を重ね合わせることにより、予測しました。

主要な眺望景観の変化については、フォトモンタージュにより、眺望景観の変化及び影響要因の視角の程度により、予測しました。

表-10.6 予測対象とする影響要因と環境影響の内容

	影響要因	環境影響の内容
建設後の影響 (設備の存在)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムの堤体の存在</li> <li>・ダムの供用及び貯水池の存在</li> <li>・道路の存在</li> <li>・原石山の跡地の存在</li> <li>・建設発生土受入地の跡地の存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム堤体等の存在により、主要な眺望点から景観資源を見た場合の眺望景観が変化し、主要な眺望景観に影響を及ぼすおそれがあると考えられます。</li> </ul>

予測地域は調査地域と同様とし、図-10.1に示します。

予測対象時期は、土地又は工作物の存在及び供用後としました。

### 10.2.2 影響の予測及び環境保全対策

#### (1) 主要な眺望点・景観資源への影響予測の結果

主要な眺望点の状況、景観資源への影響については、全地点とも事業実施区域から離れており、改変の影響は受けなため、影響はないと考えました。(表-10.7)

表-10.7 景観の予測結果

項目	調査地点		予測結果の概要	影響の度合い
主要な眺望点の状況	五条殿山		事業実施区域から離れており、改変はない。	影響はないと考えている。
	大将陣山			
	椿ヶ鼻ハイランドパーク			
	由布岳			
	久住山			
景観資源	火山群	由布鶴見火山群、くじゅう火山群、阿蘇火山、阿蘇中央火口群	事業実施区域から離れており、改変はない。	影響はないと考えている。
	火山	由布岳、池ノ台、福万山、カルト山、平家山、横山、崩平山、鍋山、合鳴山、鏡山、万丈岳、大船山、平治岳、三俣山、天狗ヶ城、鹿伏岳、星生山、久住山、肥前ヶ城、黒岩山、合頭山、狛師山、みそこぶし山、一目山、涌蓋山、米塚、高岳、中岳(阿蘇)、杵島岳、根子岳		
	火山性高原	宝山、角理山、伐株山、万年山		
	非火山性孤峰	木ノ子岳、雁股山		

## (2) 主要な眺望景観の状況の予測の結果

主要な眺望景観の状況を写真-10.1～5に示します。

### i) 五条殿山

#### ア) 予測結果の概要

山頂から、景観資源である万年山、崩平山等のある東南東方向を望むとき、原石山が眺望できます。

原石山の視角は長辺  $0.4^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、点状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測しています。

#### イ) 影響の度合い

影響は小さいと考えています。



写真-10.1 五条殿山からの眺望景観(供用後)

ii) 大将陣山

ア) 予測結果の概要

山頂から、景観資源である中岳(阿蘇)、杵島岳等のある南南西方向を望むとき、原石山、工事用道路及び建設発生土受入地が眺望できます。

原石山の視角は長辺  $0.7^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、工事用道路の視角は最も大きく視認されるもので長辺  $0.6^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、建設発生土受入地の視角は長辺  $0.2^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、点状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測しています。

イ) 影響の度合い

影響は小さいと考えています。



写真-10.2 大将陣山からの眺望景観(供用後)



iii) 椿ヶ鼻ハイランドパーク

ア) 予測結果の概要

風車 2 号機の広場から景観資源である雁股山、木ノ子岳等のある北北東方向を望むとき、原石山、付替市道及び貯水池が眺望できます。

原石山の視角は長辺  $0.7^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、付替市道および貯水池の視角は最も大きく視認されるもので長辺  $1.7^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、点状又は線状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測しています。

イ) 影響の度合い

影響は小さいと考えています。



写真-10.3 椿ヶ鼻ハイランドパークからの眺望景観(供用後)

iv) 由布岳

ア) 予測結果の概要

山頂から景観資源である池ノ台、平家山等のある西方向を望むとき、原石山、工事用道路及び建設発生土受入地が眺望できます。

原石山の視角は長辺  $0.3^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、工事用道路の視角は最も大きく視認されるもので長辺  $0.7^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、建設発生土受入地の視角は長辺  $0.6^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、点状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測しています。

イ) 影響の度合い

影響は小さいと考えています。



写真-10.4 由布岳からの眺望景観(供用後)

v) 久住山

ア) 予測結果の概要

山頂から景観資源である一目山、湧蓋山等のある北西方向を望むとき、原石山、工事用道路及び建設発生土受入地が眺望できます。

原石山の視角は長辺  $0.5^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、工事用道路の視角は最も大きく視認されるもので長辺  $1.4^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、建設発生土受入地の視角は長辺  $0.9^\circ$ 、短辺  $0.1^\circ$  であり、点状又は線状にのみ認識することができ、眺望景観の変化は小さいと予測しています。

イ) 影響の度合い

影響は小さいと考えています。



写真-10.5 久住山からの眺望景観(供用後)

以上のことから、土地又は工作物の存在及び供用による景観への影響は小さいと考えています。